

カテゴリ	項番	質問・意見要旨
水道料金	1	料金体系の設定について規定はあるのか。 →各事業体で定めている。
	2	芦屋市と比べて、伊丹市と宝塚市の水道料金が安い理由は何か。 →第3回審議会【当日資料4】1頁
財政	3	第1回目の審議会で、現状のままでいくと平成38年度に赤字になるという説明であったが、施策を実施するとなぜ黒字になるのか。 →投資額を抑えることとあわせて、民間委託の推進等で人員の欠員を補うことを考えている。
	4	これまでも事業委託や工事の抑制等で資金がなくなると予測される時期を先に延ばしているのか。 →ご指摘のとおり。あわせて様々な改善を積み重ねてきている。
	5	水道の使命は持続して安全・安心な水を供給することだと思うが、そのためには経営基盤がしっかりしていなければならない。今後、水の需要は減少するが耐震化や老朽管の更新が必要とされることに対して事務局の意見を聞きたい。 →経営改善を進めていく。また、近隣の事業体や阪神水道企業団との連携、民間活力の導入等複合的に考えていきたい。
	6	水道料金は据え置くことが大前提でビジョンも経営戦略も策定しているが、水の需要が減っていく中、このままでいくと給水収益は必ず減るが、一方で設備更新や耐震化で一定の支出は必要である。簡単に言うと、借金をして運営しているだけではないのか。 →人口減少に伴い、収益減少も避けられないので、しかるべき段階で値上げも含めた考えが必要であると考えている。また、施設を減らすことで施設の維持管理費や改修費、人件費等を減らせると考えている。
	7	過去10年程料金の値上げをされていない中、料金値上げをしない前提でビジョンや経営戦略を策定されているが、仮にその料金を多少上げたら、もっと改善されるということは考えなくてよいのか。 →料金値上げの前に内部努力が必要であるという視点でいる。まったく値上げを視野に入れなかったわけではなく、内部努力できるところを取り組み、今回は値上げをする必要はないと考えている。

カテゴリ	項番	質問・意見要旨
財政	8	コストダウンの一環として職員数の見直しをされるのもいいと思うが、10年後は職員数が約半数になることは市民サービスレベルの低下につながらないのか。水道料金を維持することが前提となっているが、市民サービスを維持するためには、水道料金の改定について議論する必要があると思う。 →市民サービスの低下をきたさないよう民間活力の導入等、運営していきたいと考えている。 芦屋市と同等の事業規模である類似団体の平均職員数は20名である。他の団体ができている以上、我々も負けないように業務を行っていききたいと考えている。
	9	経営戦略を策定しても料金回収率が100を割り続けるが、何か講ずる必要があるのではないか。水道料金を上げないのであればコストを下げるのが考えられるが、人件費以外で維持費を削減するとか、あるいは未利用地の利用等で収入を確保するとか考えをお聞かせいただきたい。 →具体の施策については第3回審議会【事前資料2】別紙4
企業債	10	過去に5%や6.2%で借りた企業債を現在の低い利率で借り替えることはできないのか。 →容易に償還期間を変更することができない。また、変更した場合は、手数料が発生し、その手数料が利息分ほどになる。
	11	低い利率で借りて、過去の高い利率の企業債を繰り上げ返済することはできないのか。 →できない制度である。
施設の更新・耐震化	12	水道事業での投資とは具体的にどのようなものか。 →主に配水管、水道設備の更新である。
	13	耐震化率と耐震適用率の違いを分かりやすく説明してほしい。 →耐震化率：耐震に適用した管路 / 耐震適用率：旧管路の継ぎ手部分を補強する等改善した管路
	14	減価償却の説明の中で、投資額を減少させるということであったが、問題ないのか。 →管の耐用年数が技術革新によって伸びており、今後は耐用年数が伸びた管に更新していくため、更新時期が伸びることで投資額を減少しても問題ないと考えている。

カテゴリ	項番	質問・意見要旨
組織	15	人件費について、平成35年から大幅に減少するが、どのように実現していくのか。 →原則、欠員不補充とし、事業を民間委託することを考えている。
	16	平成39年度に24人になったときの組織図を掲載したらわかりやすいのではないかと。 →13人減員しその業務は民間に委託すること、また下水道事業が公営企業化することで水道事業の組織との編成の兼ね合いもあり、現時点で平成39年度の組織図を作成することは難しい。
阪神水道企業団	17	平成25年度の審議会において、阪神水道企業団へ変動費込みで受水費を支払うのは不公平であると意見した。その後の阪神水道企業団との交渉はどうなっているか。また、過去に変動比率をもとに議論したが、もう一度変動比率の妥当性を説明してほしい。 →第3回審議会【当日資料4】4頁
	18	受水費の過払いの件については、阪神水道企業団とぜひ交渉を続けていただきたい。 →引き続き、構成市とともに協議していく。
記載内容	19	水道ビジョンは収益増加と費用削減が目的だと思うが、具体的な数字を水道ビジョンに書かなくてよいのか。 →水道ビジョンは理念を掲げて経営目標を定めているものである。
	20	これまでのビジョンでどれだけ経費削減できたかという比較が書いていないので、今回のビジョン策定での変化が見えにくいのではないかと。 →ビジョンを見直すのであれば、これまでの評価をすべきではないかというのはご指摘のとおり。 比較については、第4回審議会【当日資料4】のとおり
その他	21	給水収益が減少した主な要因は節水機器の普及と書いてあるが、水道利用者意識調査では節水意識は減少傾向とあり、矛盾していると思う。 →節水機器は普及しているが直近の意識調査では節水意識が減少傾向にあり、平成28年度の1人当たり給水量は平成27年度と比べて増加している。
	22	第1回審議会 当日資料3の「2 芦屋市水道ビジョン④中間報告」におけるPIについて、50項目中22項目が未達というのは、少ないということなのか。収益だけから考えると、全項目を達成するには費用がかかるように思われるが、これについて事務局の考えを聞きたい。全項目が到達必須項目なのか。 →全項目が経営改善のための指標ではない。 選択と集中で達成度を上げていきたいと考えている。

カテゴリ	項番	質問・意見要旨
その他	23	これまでの水道ビジョンの変遷を説明いただきたい。 →第3回審議会【当日資料4】2頁